

令和6年度 国立夜須高原青少年自然の家教育事業

夜須高原ファミリーキャンプ⑤

『～絵本と出会おう！キャンプで出会おう！～』

【実施報告】

1. 趣 旨

2. 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家

3. 期 間 令和6年12月7日(土)～8日(日)

4. 場 所 国立夜須高原青少年自然の家(福岡県朝倉郡筑前町三箇山1103)

5. 参 加 者 37名(11家族)

6. 活動の様子

6-1. 読み聞かせの様子



6-2. 自然散策、創作活動の様子



6-3. ミクロハイクの様子



6-4. 魔法のかまどごはんの様子



7. 感想

①プログラムに関すること

- ・子どもたちの言葉を受け止めながらの読み聞かせや、親向けの講座も興味深く、勉強になりました。
- ・やり方をスタッフの方がわかりやすく、楽しそうに教えて下さったので、子どもたちの意欲が増したようです。楽しんでいました。

②事業全体に関すること

- ・親だけでは体験させてあげられない、自然、絵本の世界、専門の方々の話など、今後日本を担う子ども達にとって大切な事業だと思います。減らさないでいただきたい。
- ・絵本に触れる機会があり、楽しかったです。普段選ばない本にも出会えました。思ったより寒かったです。
- ・いつも楽しませてもらっています。ありがとうございます。家にいるとつい家のことや仕事で子どもとじっくり話したり、過ごしたりつきあえないので、ここに参加することで家族のきずなも深まる気がします。

8. 成果

絵本の読み聞かせを通して、子どもたちは絵本に集中するとともに、絵本の主人公の体験を参加者自身が体験することで、自分自身が絵本の主人公のような気持ちになったのではないだろうか。具体的な活動として、「ばけばけはっぱ」という絵本を読んだ後には、森の落葉やどんぐりを拾ったり、「じっちょりんのふゆのみち」を読んだ後には、マイクロハイクで追体験したり、「ごはんのずかん」を読んだ後には、魔法のかまどごはんを作る活動を行った。子どもたちは、絵本の世界を実体験することで、目を輝かせ、とても楽しそうな表情をしており、子供たち一人ひとりの豊かな感情の醸成につなげることができた。

9. 課題

様々な読み聞かせや体験活動ができたが、親子でゆっくり自由に絵本と触れ合う時間の確保も必要である。

外での読み聞かせや自然散策、キャンプファイヤーを行ったが、寒さが厳しく、紅葉の見ごろも終わりかけている状況であった。活動しやすい時期等検討する必要がある。